



監査委員室にて

さて、早いもので、皆様方のご支援の下、県議会議員として3期目の任期をスタートしましてから1年が経過致しました。改選直後の議会にて総務委員長を拝命し、①東日本大震災を教訓とした本県の防災 ②危機管理体制の充実 ③大隅半島の悲願である錦江湾横断交通ネットワーク(桜島架橋) ④持続可能な行財政構造の構築 ⑤共生協働による、ぬく

節電の夏!! 暑中お見舞い申し上げます

料金別納郵便 配達地域指定

青少年の健全育成を! 芳友「ほうゆう」

発行元 鹿児島県議会議員 堀之内よしひら 垂水市田神59の5

もりのある地域社会づくりなどについて、議論をリードするとともに、予算特別委員として、平成24年度当初予算に関する調査を行いました。更に、行財政改革特別委員会におきましては、県政刷新大綱に基づく本県の行財政改革について、検討、提案を重ね、平成16年度には451億円に上っておりました財源不足が、本年度には解消する見込みとなりました。本年度は3月の定例県議会最終本会議にて、監査委員の重任を拝命致しました。この1年間、県が行っている様々な事業等が経済的、効率的、に運営されているか、また、財務会計事務が適正か否かを、しっかりと監査して参ります。また、昨年6月と本年3月の2回、本会議にて一般質問を行い、垂水市や鹿屋市、大隅半島が抱える諸課題を中心に取

政治生命を懸けて 高隈トンネル早期実現へ!!



(高隈トンネル構想地図)

大隅の横の大動脈、早期実現を

大隅道路構想の要望をみとめた上で

○答弁(土木部長)

現在、大隅地域においては、東九州自動車道や大隅縦貫道など本県の骨格となる道路をはじめ、国道220号や国道504号等の整備を進めているところであり、まずは事業中箇所早期整備に努めていく。

生産量日本一のプライドをかけて

シラスウナギの不漁について

○答弁(商工労働水産部長)

養鰻業者に対する財政支援としては、養鰻近代化資金など低利の制度資金による金融支援を行っているほか、経営安定化対策として、漁業経営セーフティネット制度への加入を促進している。また、技術的支援については、養鰻業者を対象とした養殖技術の研修や漁苗対策の指導助言等を行っている。現在県では内水面漁協に対しウナギ稚魚の放流を義務付けているほか、内水面漁協でも自主的に禁漁期間を設ける等資源保護に努めている。

また、養鰻業者やシラスウナギ採捕の団体においては、シラスウナギ資源の増大を目的とした親ウナギの放流を行っている。県としては、養鰻団体や県内水面漁連等と連携しながら、ウナギ資源の涵養が図られるよう、環境整備に努めていく。



編集後記

高隈トンネル構想については、

今回、私が初めて議会質疑を俎上に乗せましたが、残念ながら、非常に不満の残る答弁でした。九州新幹線効果の大隅半島への波及、8年後の国体開催、志布志港の国際バルク港としての活用など、いずれの面からも、桜島架橋と同様に必要不可欠な大動脈です。皆様とともに、高隈トンネルを期待する世論を盛り上げ、早期実現へ取り組んで参りたいと思います。

これから台風シーズン、災害の多く発生する時期です。地域、家族でかねてから防災についてよく話し合いをし、防災「意識」を高めましょう!



5月26日鹿児島県総合防災訓練(垂水) (中央:本人 右:伊藤知事)

大隅は、ひとつ



昭和28年1月5日 垂水市海潟生まれ

り上げ、提言を行って参りました。

危機管理行政や水産業、漁業振興など着実に進行している施策、桜島架橋や佐多岬整備など出発点にいた事業もございいますが、桜島の降灰対策やシラスウナギ不漁、大隅横断道路(高隈トンネル)のように取り組みが不十分な課題、提案を行ったばかりの構想もございいます。

これまでに取り上げました課題についても、目的が達せられるまで、本会議や委員会などの場で引き続き主張致しますと同時に、地元と県政のパイプ役として、地域の課題について正々堂々と発言し、まじめに一生懸命働いて参りますので、一層のご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

時節柄、健康に留意され、益々ご活躍されますようお祈り申し上げます。





# 鹿屋・垂水に係わる重要案件

～農業、水産、生活、環境について～

平成24年(2月27日)

一般質問より(主な答弁要旨)

### 桜島と共存、共生できる環境整備を

#### 桜島降灰対策について

○答弁(土木部長)

桜島周辺の道路整備について、県では国道504号の百引地区や県道垂水大崎線の牛根地区等を整備中であり、百引地区は平成25年度の完成を目指し整備に努めている。また、国では国道220号の早崎改良や新城拡幅等を行っている。このうち、早崎改良は平成25年度に完成予定であり、これらの整備を図るのに必要な予算が確保されるよう、国に強く要望していく。

桜島降灰除去事業について、降灰除去における市町村道の補助事業採択は、年間降灰量が一定以上に達した場合にしか適用されず、また、県管理道路の降灰除去事業は対象となっていない。

市町村の負担軽減の為に基準緩和とあわせて、県管理道路についても対象とするよう、国に要望していく。また、降灰除去車両についても定期的に更新する必要がある、引き続き、補助事業の基準緩和について、国に要望していく。なお国所有の車両の貸借については、派遣調査を行うなど連携を図って

### 漁港機能の向上で地域の活性化を

#### 鹿屋港の整備計画について

○答弁(土木部長)

鹿屋港は多数の漁船が利用していることから、その混雑解消を図る為、平成18年度までに小型船だまりを整備したが、荒天時は安全に係留できる水域が少なく、漁船の一部は桜島まで避難係留を強いられており、湾内の静穏度の向上を図る為、防波堤150mの整備を計画し、平成23年度末までに38mが完成した。鹿屋港は地域の産業振興に重要な港湾であり、着実な整備に努めていく。



〈整備が進む鹿屋港〉

いるところであり、必要に応じて国に支援を要請するなど、関係市町に協力していく。

○答弁(農政部長)

防災宮農対策事業について、降灰による農作物被害が増大していることから、県では平成24年度は前年を上回る13億600万円の予算を計上している。この事業は、三位一体改革に伴い、事業費の8割相当が財源移譲され、さらに残り2割についても一括交付金化された。このため県では、国の責任において必要な予算額を別途確保するよう要請しており、今後とも被害防止と、農家経営の安定向上を図る為、地域における被害の実態や地元の要望などを的確に踏まえ、国に働きかけるなど必要な予算の確保に努めていく。

### 観光鹿児島の姿勢が問われる

#### 佐多岬観光について

○答弁(知事)

佐多岬は本土最南端の地として全国的にも有名であり、大隅地域の観光振興上、極めて重要な地域であると考えられている。しかし現在、利用施設は老朽

### 将来を担う若者に働く場を

#### 新規学卒者の雇用対策について

○答弁(商工労働水産部長)

来年度の新規学卒者の雇用対策については、経済団体や県内企業に対する雇用確保ローラー作戦や、県内外での各種就職面談会を行うこととしている。また、企業と高校の就職指導担当者との情報交換会や、高校生の県内企業見学会をはじめ、各高校に専門の講師を派遣し就職支援セミナーを開催するとともに、県立高校にキャリアガイダンスカウンセラーや、就職支援員を配置し、県内企業への積極的な訪問による求人開拓に取り組むこととしている。今後とも国や関係機関と十分な連携をとりながら、新規学卒者の就職支援に積極的に努めていく。

新規学卒者の就職内定状況と、未内定者に対する支援について、本年3月の新規学卒者の就職内定状況は、前年を若干上回っているものの、依然として厳しい状況にある。就職未内定者に対しては、1月に高校生を対象とした就職面談会を、2月には大学生等を対象とした就職面談会を開催した。今後

化が進み、これ以上放置できない状況になっているので、平成24年度当初予算において、佐多岬公園等の整備のあり方について調査検討を行うこととした。佐多岬の整備にあたり、老朽化した施設の取り扱いをはじめ、公園へのアクセス道路の整備などの課題があることから、関係機関とも協議しながら、調査検討を進めていく。佐多岬の公園事業の執行にかかる諸条件が整い次第、できるだけ速やかに整備に着手したい。

### 世界に冠たる地域ブランドの発展へ

#### 焼酎製造用原料芋の確保状況について

○答弁(農政部長)

平成23年産の焼酎原料用さつま芋は、一部の酒造会社で希望数量に満たないところもあるが、県全体では9万9千トンの希望数量に対し、10万2千トンが確保される見込みとなっている。県としては、需要に応じた計画的な生産の取り組みを進めるとともに、反収向上対策や、契約栽培の取り組みを推進しているところであり、今後とも原料用さつま芋の安定確保に努めていく。

とも、ハローワークや若者就職サポートセンター等と連携を図りながら、年度内の就職内定に向けて支援していく。

(次の面に続く)



一般質問 鹿児島の伝統工芸品大島紬をアピール!!